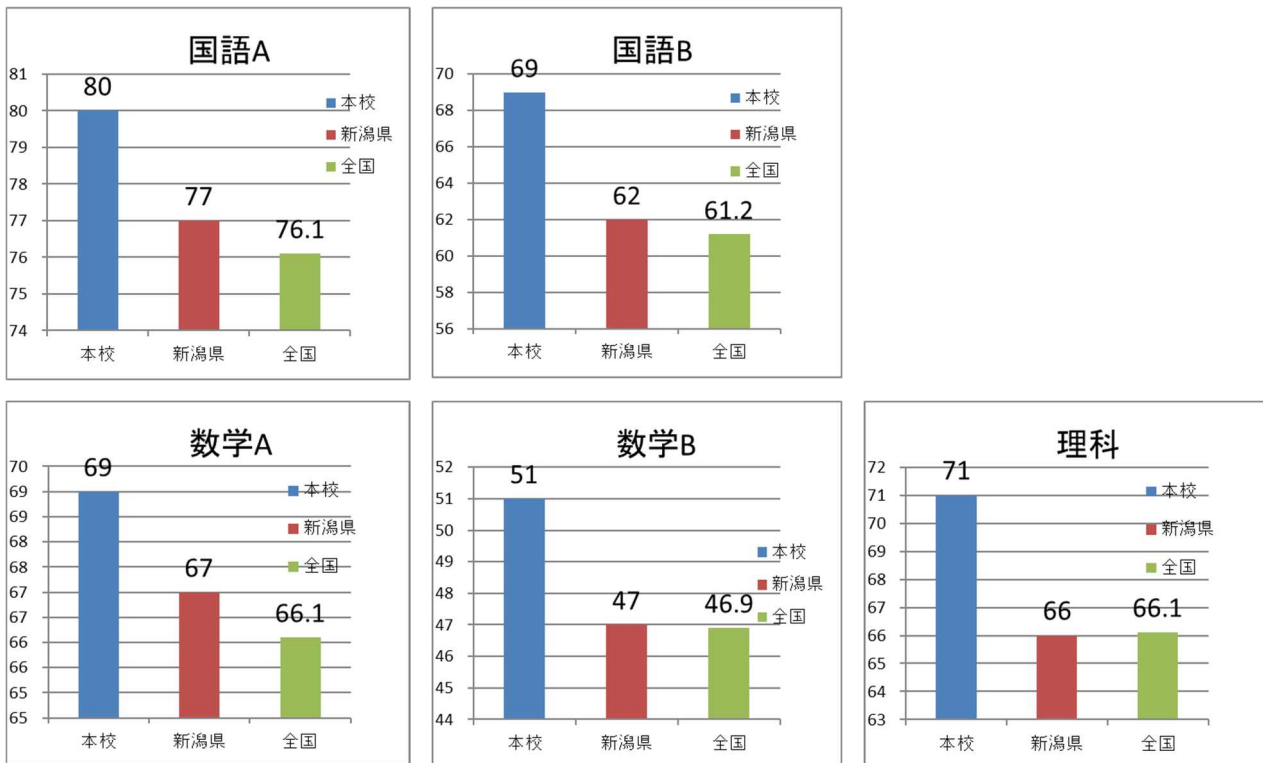


平成30年度全国学力・学習状況調査について

1 結果概要（本校と新潟県、全国の正答率の比較）



2 指導改善のポイント

全ての教科において県平均および全国平均を上回り、学習内容が概ね定着していることがうかがえる。しかし、数学Bは全国平均、新潟県平均をとともに上回っているものの、全国的に正答率が低く、本校も51%に留まっている。思考力、判断力、表現力の育成の一層の充実が必要である。また、本結果と学習状況より以下の点が本校の課題として挙げられる。

国語：書く問題において無回答の割合が高く、まとまった文章を書くことに抵抗感を持っている生徒が多いことが分かる。基本的な語彙力が不足しているためだと考えられる。また、目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことを苦手としている。

数学：図形の分野において、正答率が低くなっていた。特に、図形を変形させたものを考える問題や、文章で示された図形について考える問題で正答率が低くなっていた。これは、問題文を正確に読み取る力や、想像力、空間認識力、表現力が不足しているものと考えられる。授業では、新たな図形の問題に対して、試行錯誤するような姿勢があまり見られない。

理科：①実験器具の操作、記録の仕方などの技能を身に付けることに課題をもつ生徒が見受けられる。

（問4（1）ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘できる。全国73.4%本校66.7%）

②習得した知識・技能を活用して、観察・実験の結果を分析して解釈することに課題をもつ生徒が見受けられる。（問8（2）温度の変化の違いをグラフから読み取ることや分析して解釈することに課題があると考えられる。全国72.0%本校66.7%）

以上の課題を今後の授業等においてどのように改善し、来年度以降につなげていくのかを各教科部で検討した。検討した内容を、特に前期課程の授業において実践していく。

- 〔国語〕①語句の語源を確かめる、類義語・対義語の洗い出し、具体的な使用例を考えさせる活動等を行う。
 ②文学作品を読んで批評したり、詩歌を鑑賞して文章を書いたりした上で、それを互いに交流させる。
 ③本や教科書などから表現技法を用いた文例を探し、技法カードを作ることで知識を定着させる。
 ④普段の学校生活や作品の読解など、様々な題材で作文をする機会を作る。

- 〔数学〕①教えるだけでなく、生徒が想像力を発揮できる場面を意図的につくる。
 ②既習事項の振り返りをきちんと行う。既習事項と未知の問題の関連を考えさせる。
 ③新たな問題に対しても、試行錯誤しながら粘り強く解決しようとする態度を養う。
 ④1人では解決できない問題をアドバイスし合える雰囲気をつくる。

- 〔理科〕①基本的な実験器具の操作や記録の仕方などの基本的な技能を習熟できるよう工夫する。
 ②習得した知識・技能を活用して、観察・実験の結果を分析して解釈する能力を向上させる。